

1 単元 町ではっけん

2 教科の目標

見付けたことや気付いたことなどを分かりやすく工夫し、伝え合うことができる。

3 活用したICT

デジタルカメラ コンピュータ

4 活用したICTの工夫

- ・ 記録したものを繰り返し撮影することができる。(デジタルカメラ)
- ・ 気付きと画像を活用して資料づくりに取り組む。(コンピュータ)
- ・ 資料を大きく表示して、視点を焦点化する。(プロジェクタ)

5 実践の様子

① 見学地決定

見学地は、行きたい理由を基に決定する。自分なりの思いをもって、見学地で活動できるように、事前の思いを友達に伝える活動を行った。特に、なぜ、その見学地へ行きたいのかという理由をきちんと伝えられるように取り組んだ。そのため、何をみってくるのか、聞いてくるのかを子どもたちが明確にもつことができた。

② 現地見学

見学地では、店員に自分がここへ来た理由をきちんと伝えることができた。また、デジタルカメラを活用して、友達に伝えたいものを記録させた。このとき、撮影する画像は、伝えたいもののアップ・ルーズ・別角度から撮影させた。(資料1)そのものを知らない友達に詳しく伝えるためである。



資料1 子どもが撮影した画像

③ 資料づくり

見学地で学んだことや撮影した画像を活用して、資料づくりに取り組んだ。資料の構成は、題名・場所・紹介したいもの・クイズ・まとめとした。また、コンピュータのプレゼンテーション機能を活用した。

④ 発表

資料を基に、まずは、小グループで見学地を紹介し合った。そこで、友達からのアドバイスをもらい、大グループでの発表に備えさせた。

最後に、子どもたちは、学級全体に向けて発表した。(資料2)このとき、互い発表のよかったところを必ず伝えるようにした。



資料2 子どもが発表する様子

6 成果と課題

- 自分が伝えたいものがよく分かる画像を選び、資料をつくることができた。
- 友達からアドバイスをもらい、すぐに作り直すことができ、学級の友達全員の前で、自信をもちながら伝えることができた。
- 発表時に、友達の視点を画面に集めることができ、より伝わりやすくなった。
- 資料づくりで活動が思うように進まない子どもがいた。これは、見学地を決定する際に、見学した理由があいまいであったところがある。今後は、導入段階での自分の思いをきちんともたせていく必要があると感じた。